

セリオ、新本社工場が稼働

電動車いす年産2000台へ

展示場・試走路も併設

シニアカー（ハンドル形電動車いす）の製造・販売・レンタルを手掛ける川島グループのセリオ（望月誠社長）はこのほど、浜松市北区に本社と工場を新設、移転した。本社は12日から業務を開始、工場は8月1日から本稼働を始める。これにより2022年7月期は前期比倍増となる年産2000台のシニアカーの生産を目指す。投資額は約16億円。

同社は1996年7月の売上高は約51億円、月に設立。従業員数は21年7月期は54億円超453人。20年7月期を見込む。全国に営業



新本社工場

所を36カ所、ショールーム付店舗のモビリティショップを11カ所有する。

高齢者の免許返納気運の高まりなどを受け、国内でシニアカーの普及が急速に進んでいる。川島グループでは3月に中核会社、川嶋が開発したシニアカー「遊歩フジ」の事業全般をセリオに譲渡し、事業をセリオに集約した。セリオでは今後の事業拡大に備えて本社と工場を一体化、拡張すること決め、浜



望月誠社長と遊歩フジ

松市内に用地を確保して準備を進めてきた。

新工場は敷地面積が約1万平方メートル、2階建て工場の延べ床面積は約7000平方メートル。開発部門と生産部門が入り、年間3000台のシニアカーを製造できる。本社事務所棟も2階建てで、事務所内に「展示スペース」を併設している。正門前にはシニアカーの試走路を設け、安全指導の社内研修や一般利用者の試走体験にも活用する。

現在、22年7月を目標に新型シニアカーの開発を進めている。今後はアフターサービスの拡充にも注力する考えで、モビリティショップを7年先には50店舗にまで増やすことを計画している。一連の取り組みにより、年商100億円を目指す方針だ。

工場屋上には太陽光